国コミュ・異文化コミュニケーション学科

3年次生が初の海外研修留学へ

出発前オリエンテーションで留学の心得を伝えたフリックマン准教授

2020年度に誕生した国際コミュニケーション学部異文化コミュニケーション学科では、外国語の運用能力を実践の場において高めるために、英語圏、ドイツ語圏、フランス語圏、スペイン語圏、コリア語圏、中国語圏における半期の海外研修留学の実現に向け準備を進めてきた。22年度は渡航による留学とオンラインによる留学を合わせて、3年次生152人が10の国や地域で学ぶ。

4月にビクトリア大学（カナダ）へ渡航した59人の出発前オリエンテーションが3月16日、神田キャンパスで開かれた。

上原正博教授は海外でのマナーや帰国後の就職活動について説明。ジェフリー・C・フリックマン准教授は学びを充実させるコツとして、「Observe, Note, Research, Confirm, Practice, Evaluate」という六つのステップの重要性を説いた。

海外研修留学は2年次前期に予定されていたが、コロナ禍の影響で1年遅れての実施となった。留学制度に魅力を感じ、異文化コミュニケーション学科で学んでいる山口美月さんは、「カナダでは現地の人との交流を積極的に楽しみ、日本との文化や価値観の違いに触れたい」と笑顔で話した。

自己紹介を行う学生たち

日本語学科生

クロアチアの学生と共同研究

文学部と国際コミュニケーション学部の日本語学科の学生が、クロアチアのユライ・ドブリラ大学プーラ（プーラ大学）で日本語・日本文化を学ぶ大学院生たちと、共同研究を実施した。

プーラ大学人文学部アジア研究科の授業に、日本語学科の学生が合流する形で行われ、日本語学科から9人、プーラ大学から8人の学生が参加。5チームに分かれ、昨年11月から3カ月にわたって研究活動を行った。

各チームが選んだ研究テーマは、「日本語の語源」「日本語のオノマトペとその教育」「江戸時代の漂流民と露日辞典」「日本語の笑いを表す表現」「日本人と宗教」。9000キロ以上も離れた国に住む学生が、お互いに文献を調べ、アンケート調査を実施し、オンラインで議論を重ねた。

2月6日にオンラインで最終発表会が行われた。「オノマトペ」チームは、クロアチアで日本語を学ぶ大学生にアンケートを実施し、日本語母語話者に比べてオノマトペがほとんど使われていないことを確認した。「笑い表現」チームは、日本語では「（笑）」「ｗｗｗ」などの表現を場面や相手によって使い分けていること、クロアチア語では「Ｈａｈａｈａ」や絵文字を使い、特に親しい相手だと表現のバリエーションが増えることなどを報告した。

語源を調査した相澤春花さん（文4）は、「文化も言葉も異なる他者と一つの事を考えながら進めるのは、とても良い経験だった」と振り返った。プーラ大学のドーラ・プラニニッチさんは、「まるで日本の大学に少しだけ通ったような雰囲気だった」と感想を述べた。

プーラ大学の教員、イレーナ・スルダノヴィッチ氏は「学生たちの研究成果を見ると、本科目が最初に想定していた目標を大きく超えたと言える」と評価。専修大学側の窓口となった丸山岳彦国際コミュニケーション学部教授は「時間・空間・言語の壁を越え、立派な研究成果を上げた経験を誇りにしてほしい」と総括した。

共同研究を行った日本とクロアチアの学生

22年度中期留学プログラム（前期）

3年ぶりに再開　16人に許可書

2022年度中期留学プログラム（前期）に英語コース15人、ドイツ語コース1人が留学する。3月15日と31日、留学許可書が渡された。3年ぶりの留学再開となり、奥村経世国際交流センター長が「夢を持つことが大事。自分が立てた目標に向かって進んでほしい」と激励した。留学先と派遣期間、氏名、学部学年は次の通り。（敬称略）

【英語コース】オレゴン大学（米国、3月23日～8月28日）西谷有佑（商3）藤田みなみ（文3）篠田里穂子（文2）羽田夕海（国コミュ3）▼カルガリー大学（カナダ、4月16日～7月18日）佐藤彩（法3）峰下天音（法3）筒井鞠名（経営3）増田葵（文4）須賀千陽（文4）石渡恵（文3）伊藤早紀（文3）小倉羽琉花（文3）土屋元（ネット情報3）

【ドイツ語コース】ライプツィヒ大学（独、3月30日～8月1日）吉田夏妃（経済3）拓海（経済3）大森柾人（商3）菅

3氏に学位授与

3月28日、専修大学から3氏に博士の学位が授与された。（氏名に続き、現職、学位の種類、学位請求論文名）

小黒　智久氏　富山市民俗民芸村管理センター村長代理、博士（歴史学）、「コシの地域社会と古墳の考古学的研究」

小林　健二氏　山梨県立考古博物館学芸課長、博士（歴史学）、「古墳から見た甲斐の地域社会」

桃﨑　祐輔氏　福岡大学人文学部教授、博士（歴史学）、「東アジア騎馬文化受容過程の研究」

経営学部長賞

経営学部の2021年度学部長特別賞・学部長優秀賞・学部長優秀賞（特別選出）に19人が選ばれた。受賞者は次の通り。（敬称略、カッコ内は表彰時の学年）

★特別賞【学内外での課外活動】石川雄也（4）

★優秀賞【公認会計士試験合格】今本大翔（4）【神奈川産学チャレンジプログラム最優秀賞】白石亮（4）、中村碧海、黒澤永大、山田拓海、青山菜々子、貞冨亜流公、竹中唯未、長澤萌々佳（以上3）【スピードスケート部】堀川翼、森重航（以上3）、野々村太陽（2）、菊池健太、三井晃太、谷垣優斗（以上1）【フェンシング部】大谷謙介（1）【レスリング部】西田衛人（1）

★優秀賞（特別選出）【神奈川産学チャレンジプログラム最優秀賞】佐々木優衣（3）※石巻専修大学経営学部からの国内留学生

校友会情報

専修大学法曹会主催　無料法律相談会

校友会職域支部の専修大学法曹会が主催する「無料法律相談会」（後援＝校友会、今村法律研究室）の開催予定は次の通り。感染防止のため、今年度は電話相談となります。事前の申し込みが必要です。

【日程】5月16、30日▽6月13、27日▽7月11日▽9月13日▽10月11日▽11月15日▽12月13日▽2023年1月17日▽2月14日▽3月14日

【時間】1回30分程度。①午後4時～②午後5時～の2枠※予約時間に、相談者ご本人が電話をおかけください

【電話】今村記念法律事務所03・3264・1721

校友新社長紹介

今川国明氏（いまがわ・くにあき＝昭59法）㈱メディセオ代表取締役社長に4月1日付で就任。本社＝東京都。医薬品・医療機器の卸売業。

村田雄郎氏（むらた・たかお＝平17経済）村田発條㈱取締役社長に2月25日付で就任。本社＝栃木県。スプリング・金型治工具の製造販売業。

〈不動産建設黒門会総会〉▽5月19日（木）18時30分～▽JR神田駅徒歩5分「ワイム貸会議室神田」問大木寛之氏☎090・6617・1241

〈フェニックスグリークラブ支部総会〉▽5月28日（土）14時～▽東京メトロ神保町駅徒歩3分「喜山倶楽部」問長岡宏明氏☎090・2407・6934

アドニス99号刊行

4月15日刊行の校友会誌『アドニス』99号では、北京五輪特集として男子スピードスケートの森重航選手（経営4）、土屋良輔選手（平29経営、メモリード）と、スキークロスカントリー・馬場直人選手（令2経営、中野土建）の激闘の軌跡を紹介する。

また、校友会副会長による校友会の活動を紹介する新校友歓迎座談会を収録。「われら専修人」では、スーパー耐久シリーズ2022でM&Kホンダカーズ桶川Ｒａｃｉｎｇのレースクイーンを務める瀬谷ひかるさん（平28ネット情報）が登場。

都合により写真は掲載致しません

就職だより

〈4年次生へ〉就職活動は佳境を迎えていることと思います。選考をうまく突破できない方は、キャリア形成支援課の相談を活用して、書類や面接の内容を一度見直してみましょう。引き続き悪質なエージェントや就活塾に注意してください。

〈1～3年次生へ〉3年次生対象の「インターンシップ・就職ガイダンス」を4月19日（火）、21日（木）、23日（土）にオンラインで実施します。焦りや不安があると冷静な判断ができなくなります。迷ったら、さいなことでもキャリア形成支援課に問い合わせてください。

〈インターンシップの目的や具体的なスケジュールなど、全体像を把握できる内容です。質疑応答もありますので、疑問を解消しておきましょう。全学年を対象とした「大学提携型インターンシップの募集説明会」は5月13日（金）と16日（月）の12時25分～12時55分にオンラインで実施します。

専修人の新しい本

私たちは学習している　行動と環境の統一的理解に向けて

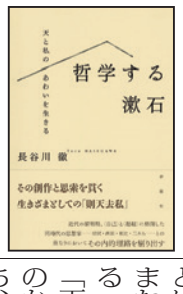
澤幸祐　著

人間や動物は、時々刻々と変化する環境にあわせて柔軟に行動を変えて生きている。心理学において人間や動物の行動変容は主に学習心理学という分野で扱われており、「経験によって生じる行動の比較的永続的な変化」という定義に従えば、学習研究の射程は「勉強」にとどまらない幅の広さを持つ。

本書では、学習研究の歴史的経緯を踏まえつつ、連合学習理論に基づいて環境と行動の相互作用である学習という現象を統一的に見通す視点を、初学者向けに解説した。あわせて、人工知能研究華やかな現代にあって「泥にまみれて生きる生物のこころ」をどう捉えるべきかについて、学習研究の視点から考察を加えた。体系的な教科書ではないが、学習心理学の入門書、あるいは副読本としてご一読いただきたい。（ちとせプレス・税込み2750円）

著者（さわ・こうすけ）＝人間科学部教授、学習心理学、動物心理学。

哲学する漱石　天と私のあわいを生きる



長谷川徹　著

本書は、明治期における最先端の「思想家」夏目漱石がいかにして思想したのか、漱石があゆんだ精神の地誌をなぞり返している。とりわけ、漱石が文芸を通じて思想した「自己本位」と「則天去私」との相克という難問にねらいを定め、二者が高次に相即するさまを跡づけている。

「近代自己」のエゴイズムの籠絡から遁れることはいかにして可能か。また、「自己本位」を生きる「自己」がいかにして「天に則して私を去る」のか。そうした視角に立ち、「則天去私」とは何であったのか、逆に何ではなかったのか、その思索の内的理路を明らかにし、「自己（私）」と「天」とのあわいを哲学する漱石の苦闘を追うことで、近代日本における「超越」の思想課題をも問い直している。（春秋社・税込み4620円）

著者（はせがわ・とおる）＝文学部兼任講師。日本倫理思想史。